



バイオバンク オープン フォーラム

患者・市民の視点からの バイオバンク未来像

2026年3月18日

患医ねっと 代表
鈴木信行

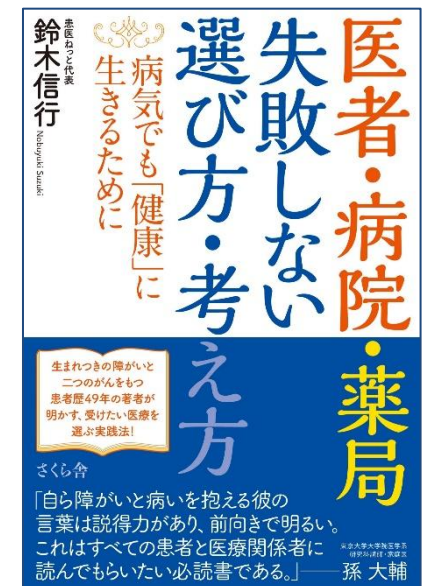


自己紹介

1969年生まれ56歳 東京都在住
生まれつきの身体障がい者（二分脊椎）
複数のがんの治療体験者（精巣がん・甲状腺がん）
日本二分脊椎症協会 元会長
精巣腫瘍患者友の会 元副代表
患医ねっと代表
元 製薬企業 製剤化研究所 勤務

日本医科大学 臨床研究審査委員会
日本医科大学 中央倫理委員会
バイオバンクジャパンPPI協力者

→患者の側からよりよい医療をともに実現する





はじめに

■ 本日の内容は・・・



個人的観点からの
発言・意見です



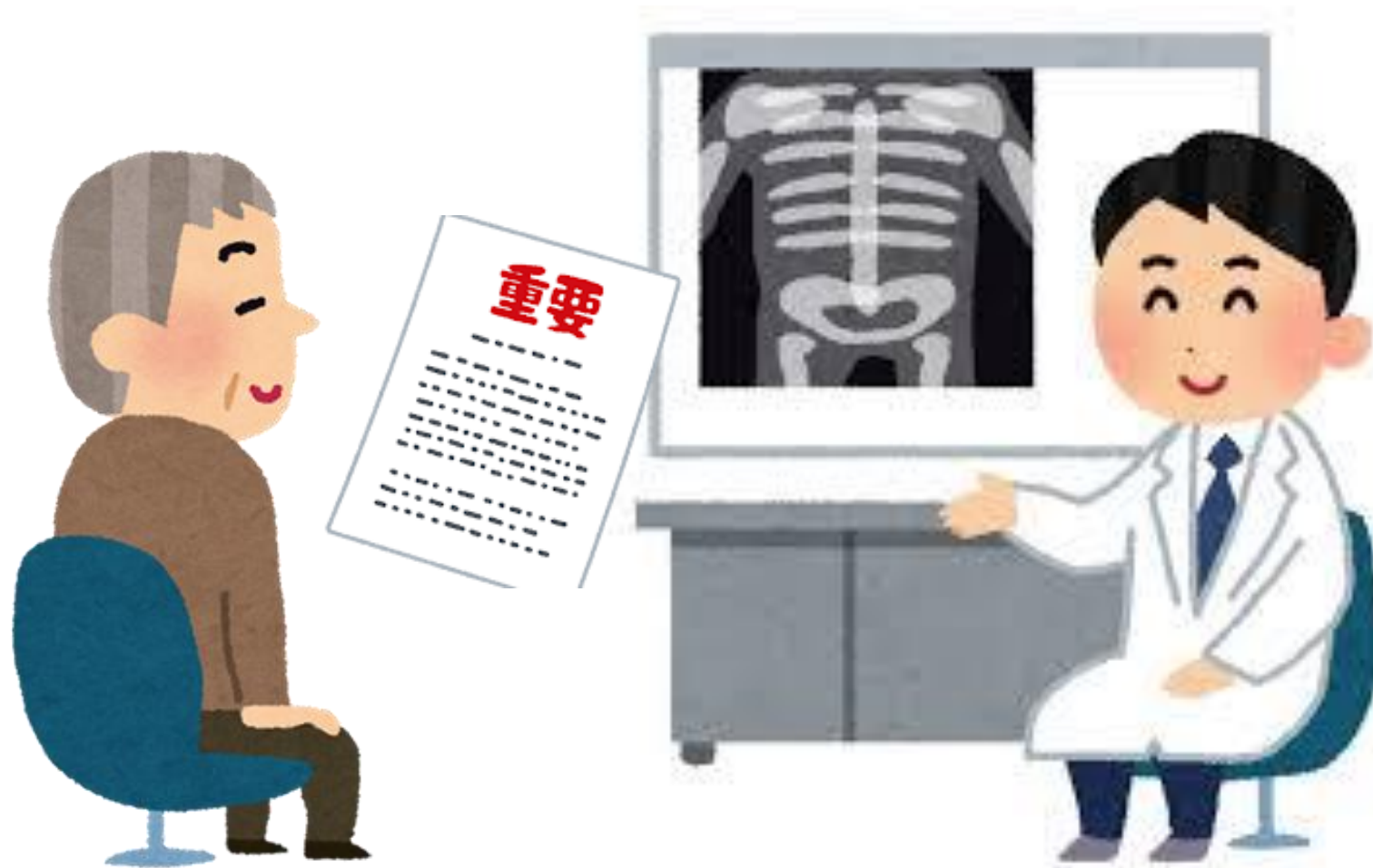
本日のコンテンツ

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 市民感覚からの背景 |
| 2 | 推測される課題 |
| 3 | 解決策の方向性 |
| 4 | 一市民としての提案 |
| 5 | まとめ |



市民感覚からの背景

■ 協力理由は主治医などからの依頼？





市民感覚からの背景

- 研究内容はわからない / B. B.の成果は見えない





推測される課題

■ 内容が難しい印象がある





推測される課題

- 参加できるのは限定された医療機関のみ





推測される課題

- 医療者・医療機関から市民への広報資材が重要





推測される課題

■ 市民感覚とのずれ？



信頼して参加

安心感重視

人間関係性

理解して参加

情報量重視

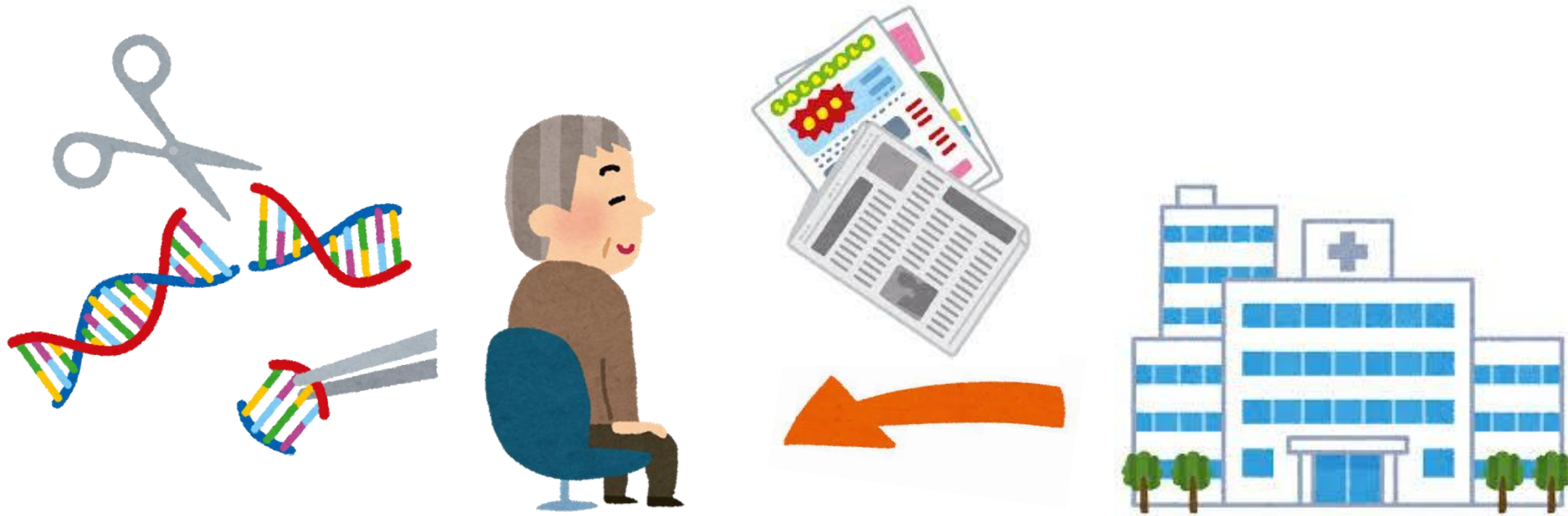
倫理的説明





解決策の方向性

- 医療機関でターゲット市民に分かりやすく伝える
- 市民の心理的ハードルを下げる



B.B.は理解しなくても参加してくれる！



一市民としての提案

- 医療者が説明しやすい資材の整備
 - ① 医療機関の待合室等を活かした情報の展開





一市民としての提案

- 医療者が説明しやすい資材の整備
- ② 対象市民が意識する多くのフックを用意



動画配信
ポスター・リーフレット
冊子・チラシ
ウェブサイト
SNS



目的は？（B.B.に対する理解なのか？）



一市民としての提案

- 医療者が説明しやすい資材の整備
- ③ 資材の検討初期から必要なPPI





一市民としての提案

- コホート研究などでは患者から参加しやすくする工夫
- ① ターゲット市民のいる場所での情報の展開





一市民としての提案

- コホート研究などでは患者から参加しやすくする工夫
- ② 医療とは別分野とのコラボ





一市民としての提案

- コホート研究などでは患者から参加しやすくする工夫
- ③ 申し込みハードルを下げる



最初の一步を楽にする（ナッジ理論）



一市民としての提案

- コホート研究などでは患者から参加しやすくする工夫
- ④ 資材の検討初期から必要なPPI

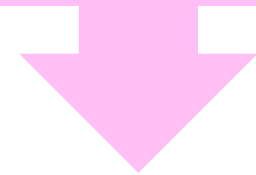




まとめ

1	市民感覚からの背景
2	推測される課題
3	解決策の方向性
4	一市民としての提案
5	まとめ

理解→参加ではなく
信頼→理解ではないか？



- 広報のターゲットの見極め
- PPIによる活動の広まりへの期待



鈴木信行連絡先

■ 質問・感想・問い合わせ ～お気軽にどうぞ～

患医ねっとウェブサイト：<https://kan-i.net/>
【検索キーワード】患医ねっと

メールアドレス：nob@kan-i.net

Facebook：
<https://www.facebook.com/nobuyuki.suzuki.313>

X(twitter)：<https://twitter.com/nobusuzu>

